

平成29～31年度の研究について

1 研究主題

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育学習の在り方
～ 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開 ～

2 主題設定の理由

【社会の現状】

グローバル化の進展により世界全体が急速に変化する中、少子高齢化や地域社会の空洞化の進展、人間関係が希薄化するなど、我が国を取り巻く社会環境や価値観は急激に変化している。社会の変化に対応して、深く結ばれた地域社会が健在であり、次代を担う子どもたちが他者との協同や公正さと規律を学びながら健全に育つ社会を実現することが求められている。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定は、日本国民の体育・スポーツへの関心を高める契機となっている。

【期待される教育の役割】

今後も進展が予想される少子化・高齢化を踏まえ一人一人が生涯にわたって主体的に学び続け、必要とする様々な力を養い、多様な人々と協同しながら社会的な変化を乗り越え、その成果を社会に生かすことができる持続可能な社会をめざし、社会全体の一層の発展を実現する基盤となることが教育の役割である。

【健やかな体の育成と体育学習に関する現状と課題】

児童・生徒の現代的な健康課題が多様化・深刻化しており、望ましい生活習慣や食習慣を身に付けさせるための指導の充実が喫緊の課題となっている。一方、子どもの体力は、おおむね低下傾向に歯止めが掛かってきているが、昭和60年頃と比較すると、基礎的運動能力は低い状況であり、積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化が顕著に認められていることから、運動習慣が身に付いていない子どもに対する支援の充実が課題である。また、習得した知識や技能を活用して課題を解決したり、学習したことを相手にわかりやすく伝えたりする力を十分に保障することができなかったという課題もある。

【主題設定の理由】

このような実態を踏まえるとともに、次期学習指導要領の施行に向け、本県の体育科では心と体の健康を生涯にわたって保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協同的な学習活動をより深く研究していくこととした。

そのためには、各種の運動がもたらす体の健康への効果はもとより、心の健康も運動と密接に関連していることを踏まえ、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成や健康の保持増進のための実践力の育成及び体力向上について考察することが重要であること考えた。

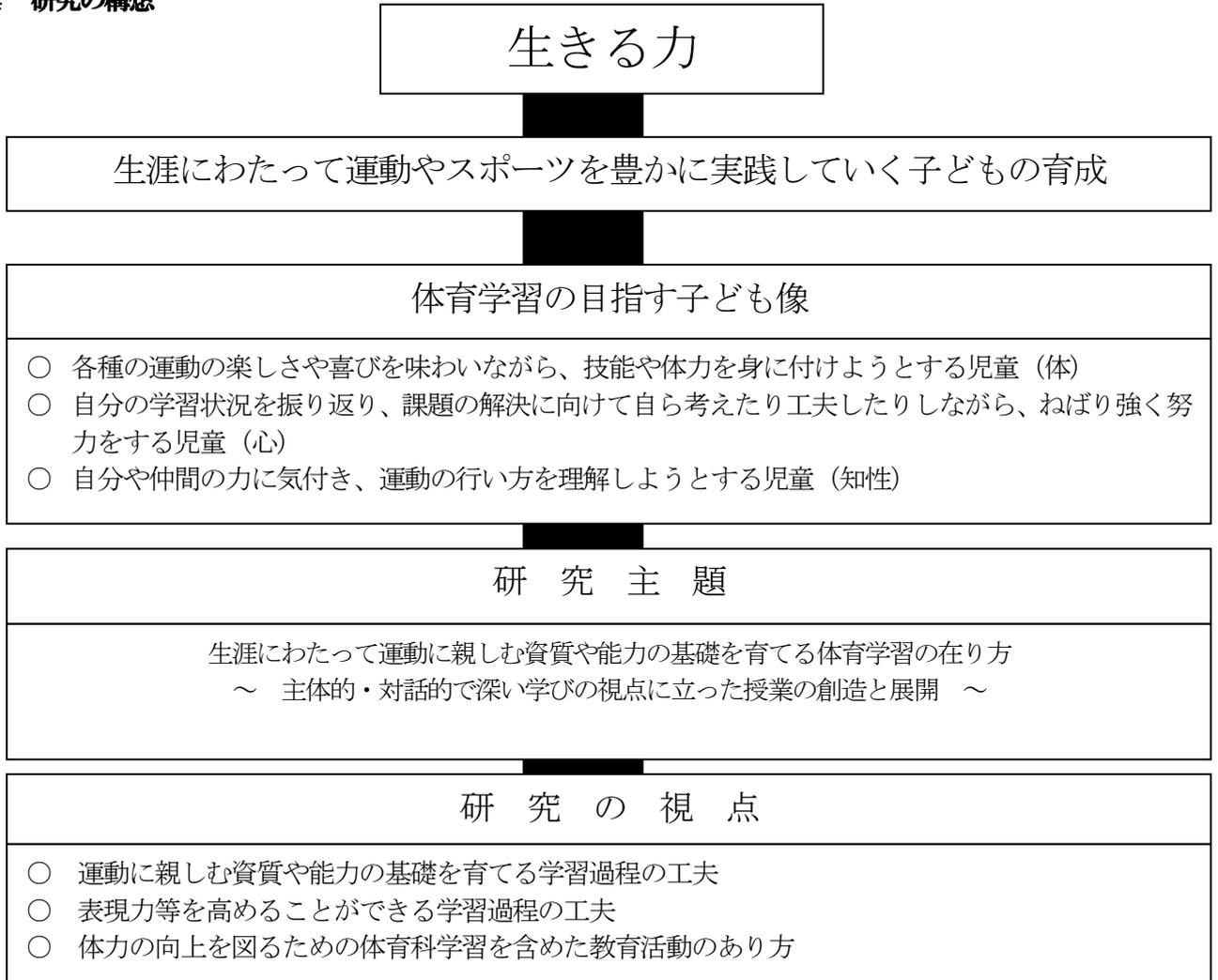
そこで、研究主題を「生涯にわたって運動やスポーツに親しむ能力の基礎を育む体育学習」と設定し、運動やスポーツをその価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点を持ちながら、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方を探れるように主題を設定した。

また、副題に体育科における資質・能力を育成するための「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの学びの過程を相互に関連させ、体育科に求められる学びのより一層の充実を図れるよう、「～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～」と設定した。

3 研究の視点

- 運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる学習過程の工夫
- 表現力等を高めることができる学習過程の工夫
- 体力の向上を図るための体育科学習を含めた教育活動のあり方

4 研究の構想



5 研究計画

月	内 容	備 考
5	研究方針検討（主題・設定の理由・構想・計画） 学体研発表大会小学校部会における日程、分担等検討	県理事会・研究部会（県研究部会）
6・7	学体研発表大会における研究の検討	児湯・西都地区体連
8	学体研発表大会小学校部会の指導案検討	県専門部会（県研究部会）
9	ポスターセッション等研究発表準備 ※九州学体研 研究発表準備（本年度はなし 次年度 児湯地区）	西都・高原町小体連
10	学校体育研究発表大会事前授業研究会 15日（月） 第58回宮崎県学校体育研究発表大会 26日（金）	児湯・西都地区小体連 全ての体連関係者
12	大会の反省	児湯・西都地区小体連
1	研究のまとめ（研究集録提出・作成）	各地区小体連
2	研究の取組の反省、次年度に向けて	県理事会
3	ホームページへのアップ（研究集録）周知徹底・活用	県事務局

- 第57回全国・九州地区学校体育研究大会

佐賀大会【11月15日(木)～16日(金)】

今年度は、全国・九州大会が併催のため、毎年九州大会で行っていた研究発表大会がありません。